

星 を 見 る 心

正 村 一 忠

近頃の科學雜誌は、時代的に、所謂戰時科學の記事で滿されてゐるが、矢張りこれも時代に對する科學への心構である。

こうした時代々々によつて科學界の趨勢に變化があるのは、夫々國家の政策が時代的色彩を帯びて登場するのと何等變りはない。

僕の小學生時代、と云つても、6~7年前のことであるが、その頃の科學雜誌は星の記事で滿されてゐた。「子供の科學」や「科學畫報」等は今でもだが、(其頃でも科學に興味を感じる多くの人々の愛讀した處であるが)、之等の雜誌が與へてゐる影響は可成大きい。僕も矢張り、此の影響を被つた一人である。お互に、夫々、ある事柄に對して興味を持ち始めるといふことは、何か動機がある。その動機が生ずるには、動機を生ぜしむる原因がある。その原因は其人自身と其周囲の環境によつて又、まちまちである。

小學校の高等科へ入つた。入ると同時に新しく轉住して來られた先生が、吾々を受持つことになつた。これがそもそも僕の天文への原因である。その先生の話した星の話が原因となつて、其の頃、圖書室の貸出係をやつてゐた自分が、毎月くる「子供の科學」や「科學畫報」を読むにつれ、星に段々と引ずられる様になつた。此の圖書室は、小學校のものであるが、完備してゐて、小圖書館にも勝る位、立派な圖書も多かつた。

この中から、天文に關する圖書を、片端から引出して讀んだものだ。今から考へると、よくやつたなと思ふ様な馬鹿らしい事もある。讀んだり、ノートしたり、先生以外使用出來ない本も、鍵を持つてゐる幸に、引き出して讀んだものだ。讀んでゐる内は良いが、その次には星が見たくなる。望遠鏡がほしくなる。科學雜誌の廣告欄に眼がひかれる。こうして自分は天文に引づり込まれてしまつた。

こうして、天文の本は、次から次へと讀み耽つた。望遠鏡もほしいほしいと氣に病んだ。日蝕や月蝕等、天界に珍現象がある度に益々望遠鏡がほしくなつた。しかし、小學生の自分がこんなものをほしがつても、到底贅澤視される位が關の山で、父も買つてくれそうになかつた。遂に意を決して貯金を引づり出して、某社へ望遠鏡を注文したのはよかつたが、間もなく父に見付つて、終ひ取止めとなつて了つた。

こんな事があつて以來、自分は一時謹慎の態で、今迄公に讀んでゐた天文の本等も、父の氣の付く處では讀むのを氣兼ねしてゐた。

けれども、こんな事で自分は此の希望を諦める事は出来なかつた。代理部や製作所と云はれる處のカatalogを、彼方此方に請求し、時來るのを待った。けれども、小學生の自分にそんなものは何時迄待っても駄目であつた。結局は、自ら働いて求めなければ、到底求められそうにもない。そうして、自分が捜し當てた職業は新聞配達であつた。小學生の仕事として、此の新聞配達は割のいい仕事である様に思つたけれども、大抵の友達はこの仕事を家計の援けにしてゐる向が多かつた。自分は此の仕事を望遠鏡を購ふ手段に用ひたのである。

月の末には少し許りの報酬を渡された。これで望遠鏡が買へるのかと思ふと、こうした目的に到達するのを楽しみに、朝早く、未だ街の中が宿鎮つてゐる頃、家を出て、世間が活動を始める頃、歸宅したのである。

よく輝いてゐる金星を曉の空に眺め、希望の輝きを覺えたこともある。しかし、こうした結晶、これも自分の儘にはならなかつた。

父は、自分のこうした計畫も知らないで、働いて得た金を貯金して置く様に奨めた。自分は父の言ふ事に逆はなかつた。それで、稼いだ報酬の半分を父の教に従つて貯金し、半分は自分の手許にしまつて置くことにした。けれどもこうした計畫は豫定通りには行かなかつた。自然に讀者は減るし、新しく勧誘することも出来なかつたし、僅かの購讀料をも拂はない人も出來て來て、遂に修學旅行を期に、間もなく此の仕事は人に譲つてしまつた。

けれども此の結果、貯めた僅か許りの小遣にて小さい望遠鏡を買ふことが出來たのである。僅か25ミリの口径の此の小望遠鏡は、こうして僕の手に入れたものである。此の望遠鏡で、オリオンの星霧も、土星の環も、木星の四大衛星も見たのである。土星の環は、丁度團子に串をさいた様な風に見られ、奇妙な感じを受けたものであつた。本星の縞も、二本、Seeingのいい時、見られた。月も太陽も見た。始めて太陽を見た時は、黒點なんか見られなかつた。失望したけれども、數日後に始めて太陽面に黒點の小群を見付けだした時の喜び。ボツンとした黒點を見付けだした時は、ほんたうに飛上る程嬉しかつた。

一通り星を見て了ふと、此の25ミリでは餘りにも物足りなかつた。かうして結局見るものは限定せられ、最小限の小望遠鏡は必然的に太陽黒點の觀測へ走つた。太陽黒點なれば此の小望遠鏡で、變化を catch することが出來た。僕が太陽の觀測を始めたのも、こうした器機的な原因によるものが多い。

こうして觀測への第一歩へ踏出すと、指導者がほしくなつた。そうして昭和10年の暮、協會へ入會、續いて、昭和13年には其他2, 3の group に入れてもらひ、觀測に勵むことになつた。

此の間に、色々と珍談奇談も降つたり湧いたりしたが、兎に角、昭和10年夏より今日迄、此の小さな望遠鏡を驅使して、太陽黒點の觀測を續けて來たので

ある。けれども、人である以上、僕にも向上心はある。そうして人並の望遠鏡を持ちたいと云ふ心は決して忘れなかつた。こうした心は、こうした研究の團體に入ると、益々強くなつた。昭和13年の春、木邊先生に Lens の製作を依頼したる處、御多忙中にも不拘、心良く引受けて下さつて、其の夏出來上り、14年四月には、赤道儀も、木邊先生の御骨折りと、西村製作所の厚意により、出來上つた。こうした厚意によつて出來上つた器械も、其の觀測室を建てる費用がなくて、残念乍ら二階の廊下に置いた儘、一ケ年餘の年月は經つて了つた。其の間、自分は觀測への憧れと厚意に報ゆるために氣を病んで、資金の調達、觀測場所の選定、觀測室の設計計畫等に骨折つたが、其の間、木邊先生も、わざわざ御來宅下され、盡力して頂いた次第である。けれども、いざ建てるとなると、種々問題が起つて、仲々進捗しなかつた。二轉、三轉、行きつまつた時もあつたが、遂に努力への道は通じて、本年七月建築許可となり、直に工事に着手した。雑草の繁つた土地は、友人や、後輩や、他の人々の勤勞奉仕に預つて、美しく整地され、八月4日地鎮祭、同13日起工、九月16日ペンキの塗装を最後に、翌17日には器械を据付を完り、正村天體觀測所の門標を掲示して、多年に渉る懸案も、一先づこれで片付いたのである。場所は岐阜市長森北一色國松に在り、通稱天王寺山と云ふ小さな丘山の上である。市電の便ありて、可成交通にも恵まれてゐる。自動車なれば直ぐ近くへ來るし、自轉車なれば山の頂迄登るし、四圍田園にて空氣清澄靜かな新市街である。近くには、中部第四部隊兵舎、岐阜陸軍病院、岐阜藥學專門學校等あり、敷地 110 坪、觀測地としては好適の場所である。

觀測室は、建坪 5 坪、Cream で塗上げ、屋根は移動式とした。東南西の三方に窓をとり、夏涼しく、冬暖かい様に設計した。屋根はルーピング張りにて滑車により、軽く開閉出来る。四方の見透は完全で、燈火の妨害もなく、二室に分け、一室は地上に打立てられた Concrete 臺に10センチ(有效9センチ)屈折赤道儀を据付け、一室は圖書兼研究室とした。又、夜間は此處で宿泊出来る様にした。こうして懸案の觀測室も出來上つて、僕としては、木邊先生に對する責任も一先づ果した譯であるが、他面觀測者としては、充分器械を使用し、完全に觀測に勵んでこそ、此のレンズ製作者に對する義務を果し、又、最後の目的が觀測にある以上、立派な觀測をなす事を念願としてゐるものである。

觀測室も出來た。器械も据付つた。これからは觀測である。觀測に専念すれば良いのであるが、より良き觀測をなすには、より一層設備の充實と觀測への努力がゐる。天體觀測が天候に支配される以上、それに應ずる用意と、時間的餘裕が在る。況んや連續觀測に於てをや。研究をなす者は専門家とアマチュアとを問はず、夫々の悩みはある。

専門家には玄人としての悩みがあらう、アマチュアにはアマチュアとしての悩みはある。アマチュアが玄人たらしとするのは愚であらうが、どうせ研究するものなれば、一層正確を望むことは當然で、より精確なる観測、精密なる測定をなすには、矢張りアマチュアとして、それ丈の努力を要するのは勿論である。そこにアマチュアの悩みがある。

観測に事缺かぬ時間と、天候の變化に應ずる用意と、生活の餘裕と、器具器械の整備、研究資料の入手、こうしたものは最も大きな悩みである。

働き乍ら、生活の糧を得乍ら、観測に従事しなければならない amateur の一員として、僕にも矢張り、これは共通の悩みであるが、之等の悩みは結局努力と熱に依つて、一層の精進に依つて、少しでも除かねばなるまい。

これが amateur の覺悟であり、アマチュアとして科學に處する覺悟である。

自分は近い將來入隊を約されてゐる身であるが、一兵士となつた後も、勿論此の覺悟である。入隊する以上は、レンズ製作者に對する最後の義務、即ち、観測の勵行と云ふことは當分出來ないだらう。これは其の義務を放棄する意味でなく、自分はあくまで、生ある限り、此の道に努力を續けるであらう。

自分が入隊を前に、當然その事を知り乍ら敢えて観測室を作り、其の完備を急いでゐるのはこうした考へからで、よし自分が不幸にしてその目的を達する事が出來なかつたにしろ、こうした設備が在る以上、いつかは誰かが其の意志を繼いでくれるであらう。

そして、それに努力を吝まない人物が出る事を心から希つてゐるのである。

(1940, 11, 20)

急 告

さきに、スライフ博士の火星の寫眞を限定數だけ希望者に分ちましたところ、意外にも諸方面から夥しい要求がありまして、本會事務局は面喰つたわけでしたが、かうした珍らしい寫眞の要求が他にもある事が分りましたので、今般とり敢へず下の如き寫眞を複製して、會員に限り、配布することにしました。一月10日までに御申込み下さい。一月末までに發送します。

天文寫眞 第1輯 價、一枚に付き金1圓40錢(送料共)、申込と同時に送金されたし。皆、非常に珍らしいもので、始めて發布されるもの、又は日本では殆んど手に入らぬものばかりです。すべて説明文つきです。

1. **土 星** リク天文臺にて觀察されたもの。今回の接近の記念として絶好品。
2. **ペル|の皆既日食** 1937年六月8日、花山の観測隊が撮影したもの。
3. **フィンヌ彗星** 1937年七月、賑やかなペルセ星座を北進する景觀。
4. **盛装のアインスタイン博士** 相對原理の創設者の見事な肖像。
5. **小マゼラン雲** 近年の宇宙研究上に有名な天體で、日本では見えない珍景。